

【受託事業】

宮崎市「平成31年度ふるさと文化学習支援事業」

2019年4月～2020年3月

[事業目的/内容]

宮崎市教育委員会より委嘱された講師が「ふるさと先生」として、宮崎市内の小中学校から申請のあった学校に行き、クラス単位で授業を実施する。講師や学校側（担任の先生方）の3者で話し合いを重ねながら、どのような授業を創っていくかをコーディネートし、授業当日は授業のサポーターとして出席する。

[実施回数] 134回 [実施単位数] 254単位 [参加児童・生徒数] 3,884名

[実施小学校数] 25校 [実施中学校数] 6校

[実施学校]

【小学校】 檜小学校、檜北小学校、赤江小学校、生目台東小学校、池内小学校、瓜生野小学校、江平小学校、大久保小学校、学園木花台小学校、清武小学校、倉岡小学校、江南小学校、佐土原小学校、住吉南小学校、田野小学校、恒久小学校、那珂小学校、広瀬西小学校、古城小学校、本郷小学校、宮崎小学校、宮崎西小学校、宮崎東小学校、宮崎港小学校、宮崎南小学校

【中学校】 青島中学校、生目台中学校、生目南中学校、東大宮中学校、久峰中学校、宮崎西高等学校附属中学校

授業実施内容一覧

ふるさと先生		授 業 内 容
芥川 仁	写 真	写真集からメッセージを読み取る。児童生徒それぞれが関心のある物の写真を撮り、お互いに鑑賞し、先生より講評をしてもらう。
猪崎 悦子	自然環境	学校の校庭でのネイチャーゲーム。(自然の中の葉っぱや石、小枝などの役割をみんなで楽しく学ぶ)
伊藤 五恵	造 形	器の歴史や粘土のことについて話し、子どもたちの間を丁寧に回り陶器作りを指導し完成に導く。粘土をこねて形を作り、釉薬を塗る(学校で)窯で焼き上げる(伊藤さんの工房)。今年度はメモを取り、そのメモを見て作品を作ることを子どもたちに伝えた。
井上 恵子	箏	箏の話、先生の演奏を聞いた後、実際に子どもたちが琴柱をたて、音を調節し、「さくら」を演奏する。
岩切 邦光	和太鼓	和太鼓の歴史、素材などの構造についての説明。新聞紙のバチで太鼓をたたく練習をする。あいさつや感謝の言葉の大切さを太鼓を通して教える。
桂 歌春	落 語	落語の歴史、落語の実演、言葉あそび、川柳を作る。
金丸 二夫	デザイン	消しゴムで自分の印鑑をつくることから始まり、「木」の一字を筆でないものを使い書き、その作品をトリミングする。また、横幅3.5mの布にクラスみんなで墨を使って書く。その他、自分の手を画用紙に写し、その手に棒状に切った色紙を貼りつけていく。
小牧 宗芳	茶 道	茶道の心構えや作法について、ビデオを使って説明。お茶を点て、運び方、いただき方を一つ一つ指導する。きれいな立ち居振る舞いを学ぶ。
土田 浩	チェロ	チェロの演奏。楽器の構造を説明。チェロの体験演奏。指揮の体験。
長友 裕子	美 術	この世の最初のヒトになった気持ちで、伝えたいことを壁面に表現する。教室の壁に紙を貼り洞窟のような空間を作る。古代人が描いた壁画の映像を鑑賞し、それぞれが伝えたいことをえのぐを使って絵で表現し壁画を完成させる。
中村 禎子	合 唱	歌詞を大切にし、意味を理解して歌うこと。自分なりのイメージを持って心を込めて歌うことを学ぶ。

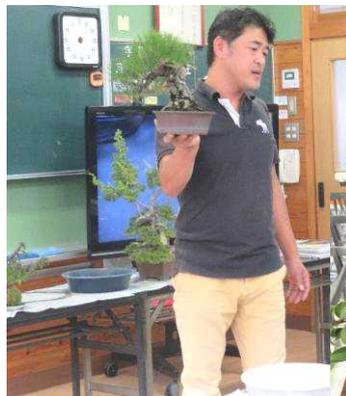
永山 智行	演 劇	体と言葉を使ったいろいろな遊びを通して(ボールを使ったゲームや区切った時間の中で活動するゲーム)、他者とのコミュニケーションの困難さや喜びを体験する。	
服部 央	打楽器	グループに分かれ、身体を使ってリズムを作る。太鼓(ジャンベ)やタンバリンで掛け合いをしながら、リズムを楽しむ。	
松本 英揮	環 境	DVD・パソコンやスライドを通して、世界の環境問題や取り組みについて学習する。知識が豊富な生徒たちからの質問に答え、意見の交換を行う。	
みのわそうへい	コンテンポラリーダンス	音楽に合わせて体を動かし、ダンスを楽しむ。子どもたちの身近にある「レジ袋」を使って、子どもたちと様々な動きを作り最後に『ボレロ』の曲に合わせて一つのダンスに仕上げる。	
村上 由哲	津軽三味線	心構えや呼吸法、姿勢のこと、三味線の説明があり「ソーラン節」を目標に実際に三味線に触れ、演奏する。	
東 由子	歌 唱	声の出し方練習。学校の教材曲の詩と音楽をそれぞれに群読と母音唱で味わい、歌として歌う。2つ以上のグループに分け、歌を聴き合うことや、全員合唱(斉唱)を行う。	
新 規	瀬戸口 隆	気 象	参加型の授業。実験や動画を活用し、見えない気象現象を知る。天気図や気象レーダー・災害情報などの理解、テレビの天気予報、気象庁ホームページの見方・活用法について学び、気象の道に進んだ事について話す。
	野元 大作	盆 栽	盆栽の起源や歴史についての話。盆栽の実物を数点持参、それを使ってどのように作っていくかなどのお話や世界に広がっている「BONSAI」についても子どもたちに伝える。体験として実際に「こけ玉」を作ることで、実際に触れ、育て、鑑賞することで植物の命を伝える。
	山崎 晴子	美 術	学校との打ち合わせの中で、学校から子どもたちの状況を聴き、今、子どもたちに良いのではないかと思うプログラムを提案される。今回は画材にパステルを使って実施。



山崎 晴子さん



パステルを使った作品



野元 大作さん



子どもたちが作ったこけ玉

[所 感]

今年度新規登録のふるさと先生たちそれぞれに、授業の依頼があり実施した。

各ふるさと先生からは、学校の授業は初めてで「とても緊張して前の夜、眠れなかった。」「ドキドキして体が震えます。」「何度も準備物を点検しました。」など、とても緊張された様子が伝わってくる話をうかがった。そんな緊張の中、先生方はとてもスムーズに授業を進め、子どもたちとのコミュニケーションも上手に取られ、素敵な授業を展開されていた。

これからも新たな分野の先生方の参入があることで、子どもたちの世界観が大きく膨らみ、未来の可能性が広がることを期待したい。そのための準備や情報の収集をしっかりやっていくことの大切さを強く感じる。